

Title	編集後記；奥付
Sub Title	
Author	小川, 芳範(Ogawa, Yoshinori)
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2008
Jtitle	Newsletter Vol.3, (2008. 3) ,p.8- 8
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002003-00000003-0010

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究員紹介

山崎由美子

2月より「脳と進化班」の一員となりました。私はこれまで、様々な動物種の認知能力について行動的・神経科学的手法を用いた解析を行ってきました。グローバル COE プログラムでは医学部リサーチパークにて、マーモセットの高次認知機能研究に従事いたします。マーモセットは小型の新世界ザルで、次世代霊長類実験動物モデルとして注目を集めている動物です。社会性が強く、音声コミュニケーションを活発に行うというヒトと共通の特性を有するため、この動物の高次認知機能を研究することで、霊長類の認知・言語能力の進化についての新たな理解が得られると思います。そのために、様々な分野の方々からのご助言をいただき、多角的な分析を進めて参りたいと思います。



染谷芳明

2月より特別研究教員となりました染谷芳明と申します。

専門はMRIを用いた脳機能研究です。

これまでのテーマは、MRSI法を用いた脳内代謝物質の加齢変化の測定、fMRIによる機能的高分解画像法、大脳機能組織内及び組織間の相互作用の研究などで、現在の興味は経皮的通電法による痛覚閾値の上昇に関わる脳内機構です。またMRIの実験環境の整備などにも携わっております。今後とも宜しくお願いたします。



加藤真樹

2月からグローバル COE のプロジェクトに参加しました加藤真樹と申します。これまで、ヒト言語の神経基盤を理解する為のモデル動物として、鳴禽類のさえずりのメカニズムについて主に分子生物学的手法を用いて研究を行ってきました。本グローバル COE では、ヒトと同じ霊長類のマーモセットを用いて、音声コミュニケーションを司る脳機能の分子基盤を解明したいと考えております。どうぞよろしくお願いたします。



敷島千鶴

1月よりグローバル COE の非常勤研究員に就任いたしました敷島千鶴と申します。この春、社会学研究科教育学専攻博士課程を満期退学いたします。双子の類似性から、遺伝と環境の影響を探るという、行動遺伝学の魅力に惹かれて安藤寿康先生を訪ねてから6年が経ちました。以来、双子研究に取りつかれていますが、学生ではなく、研究者として関わることができるようになりますことをたいへんうれしく思います。行動遺伝学は人間の形質を正面からではなく、背後に潜在する原因論から接近する、いわば裏技です。この正統ではない方法を使って、人の行動の有り様を少しずつ見ていきたいと思います。

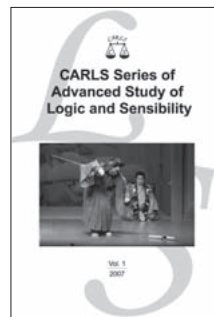
事務局だより

新規研究施設紹介

● MRI 実験室

MRI (Magnetic Resonance Imaging: 磁気共鳴画像装置) は、通常、生体の構造を詳細に映し出すことを目的とした大型の画像装置である。近年、脳画像技術の進歩により、この装置を用いて、構造だけでなく機能、すなわち、課題遂行中の脳内の活動状態を知ることができるようになった。これをファンクショナルMRIと呼び、現在では、この手法を用いた研究が、心理学や神経科学などの分野で盛んに行われており、脳研究の飛躍的な進歩を導いている。

今回のグローバル COE プログラムで、我々は強磁場による、より精度の高い撮像を可能にするため、シーメンス社製の3テスラMRIを導入した。「論理と感性」に関連する脳活動を中心として、人間の心に関するさまざまな活動の背後にある脳内メカニズムが明らかになることが期待される。



2007 年度成果報告書

2007年度における本拠点の研究成果をまとめた報告書2冊を紹介いたします。CARLS Series of Advanced Study of Logic and Sensibility, Vol.1 (上)は、事業推進担当者や特別研究教員、研究協力者らの今年度の研究成果をまとめた論文集(欧文)です。『論理と感性の先端的教育研究拠点活動報告書 Vol.1』(下)は、今年度開催したシンポジウム、研究会等の報告と、拠点メンバーの著書、論文、学会発表等の業績をまとめたものです。入手方法につきましては下記事務局までお問い合わせください。

編集後記

3月は芽が現れ出る月、ものの始まろうとする月、つまり気鋭の月。そんな言葉をどこかで読んで覚えがあります。いまだ冬のままに冷たい風のなか、水のなか、土のなかに、木の芽、草の芽はふくらみ、春はきざします。するどく吹きぬける風のなか、学び知ろう、教え伝えようと努めてきたものたちに、春はきざしているのでしょうか。今号では、そんな願いを込めて、われらが「気鋭」の研究者たちによる年頭3か月あまりにわたる刻苦勉勵の様子をお伝えいたします。4月は花のひらく月、めざましく心のひらく月。幸田文の言葉はたしかそう続いていました。(小川芳範)

慶應義塾大学 論理と感性の先端的教育研究拠点
Centre for Advanced Research on Logic and Sensibility
Newsletter 2008, March, No. 3

発行日 2008年3月28日

代表者 渡辺 茂

〒108-0073 東京都港区三田3-1-7 三田東宝ビル7F・8F

TEL : 03-5427-1156

FAX : 03-5427-1209

coe-office-al@flet.keio.ac.jp

http://www.carls.keio.ac.jp/